第482号（通巻584号）　平成26年10月10日発行（毎月１回10日発行）　昭和57年６月21日第３種郵便物認可

保育界

2014
10

発行　日本保育協会

おじいさん、おばあさんが昔見ていた原風景を再現
― エマウス・オイルベルグ保育所・幼稚園（ドイツ）―

公益財団法人 日本生態系協会
教育研究センター長　田邊龍太

子どもの思いやる心、命やものを大切にする心を育むためには、自然の恵みを生かした保育環境づくりが重要です。ここでは、そうした環境づくりを積極的にすすめる海外の事例をご紹介します。

『おじいさんやおばあさんが子どもの頃に見ていた原風景を再現したかった』
『原風景を通じて、地域への愛着を育みたかった』

このような思いから、都市部にあるこの園の園庭には、在来種が生えるビオトープ（上記写真）、おいしい野菜が育つ菜園、ハーブや遊びの材料になる外来種が生えるゾーンの3つの場所がつくられました。園庭の基本設計にあたっては、自然景観設計士（日本でいうビオトープ管理士）が関わり、その後の管理についても定期的に助言をしています。

園児は、在来種のことを「おじいさんやおばあさんが子どもの頃に見ていた自然の草や木」と認識しています。そして、野菜などの農作物や外来種は、地域の自然にはもともとない植物であることを普段の生活を通じて理解します。

この園で日々を過ごす園児は、園庭で、地域の自然の原風景をながめ、虫をつかまえたり、花を摘んだりして、地域の自然について学び、地域への愛着を深めています。

■冊子「自然の教育力・保育力を活かす～全国学校・園庭ビオトープコンクール2013より」
昨年度に催しました「全国学校・園庭ビオトープコンクール 2013」をもとに、自然を取り入れた環境づくりのポイントや実践例をまとめた冊子（32頁）とパンフレット（A3判2つ折り）ができあがりました。日本生態系協会ウェブサイトから無償ダウンロードできます。